

地域医療介護総合確保基金を活用した薬剤師確保対策

R5年度からの新たな取り組み<病院薬剤師出向・体制整備支援事業>

概要

- 地域における**病院薬剤師の安定的な確保**を目的として、都道府県が指定する病院へ期間を定めた薬剤師派遣を実施
- 地域偏在を解消するため、**薬剤師が不足している地域の自治体病院**に対し、充足している病院から薬剤師を派遣
- 病棟業務や地域連携等の経験のある薬剤師が、派遣先の医療機関でノウハウを共有し、**地域医療に貢献できる仕組み**を構築

在籍型出向

薬剤師派遣のイメージ

- ・出向元医療機関で雇用されている**出向中堅薬剤師A**を薬剤師が不足する出向先医療機関へ派遣する。
- ・出向元医療機関では、出向中堅薬剤師Aの代替要員として**若手薬剤師B**を雇用する。
- ・出向中堅薬剤師Aは調剤業務等に加え、出向元医療機関の**指導薬剤師C**からの助言を受け、出向先医療機関に対する業務支援を実施する。

令和3年9月に薬剤師派遣に対する経費支援がメニューとして追加！

地域医療介護総合確保基金

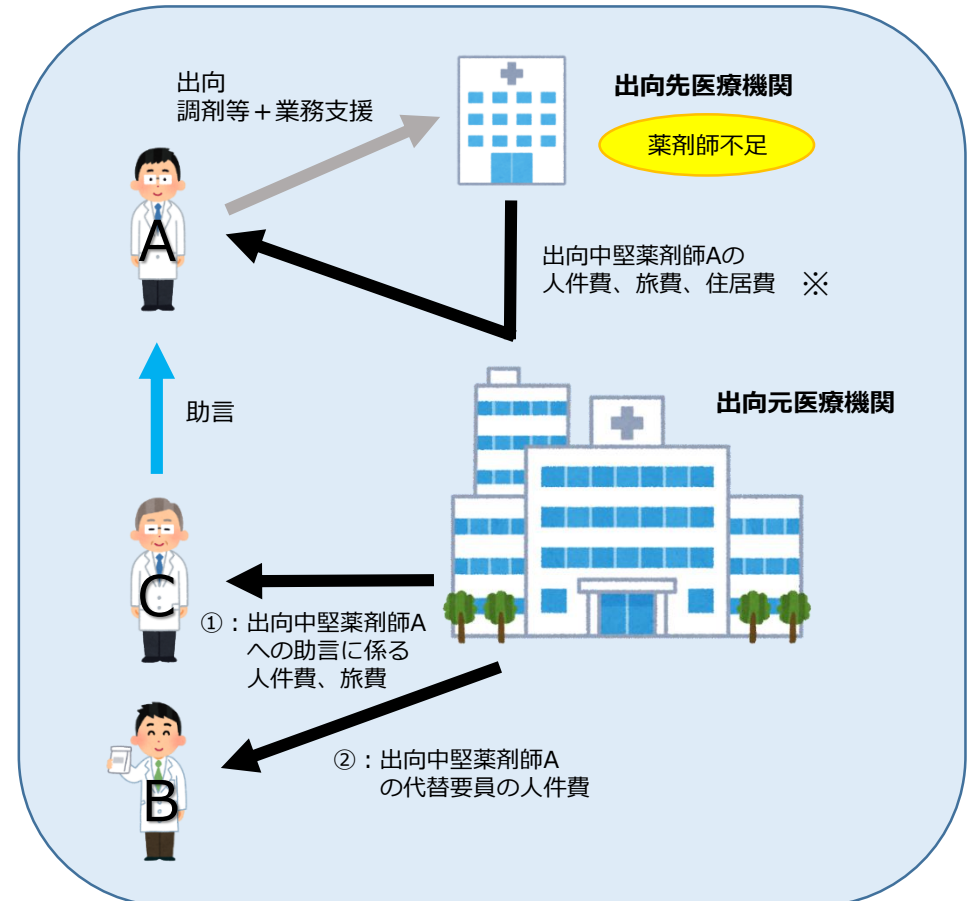
補助対象者：出向元医療機関

補助対象経費：①、②に係る人件費、旅費等
補助率：2/3

目標

- 人員を確保し、病棟業務や地域連携などにも対応できる環境作り**
- 薬剤師として様々な経験が積める、魅力ある職場作り**

継続的で安定した雇用に繋げる！



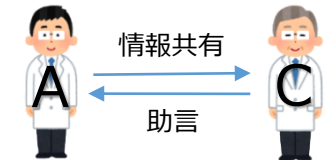
※ 出向先医療機関は、出向中堅薬剤師Aの人件費、旅費、住居費を支弁

R5年度からの新たな取組み<病院薬剤師出向・体制整備支援事業>

概要

- **出向中堅薬剤師A（薬剤師歴10年程度）**とその助言役である**指導薬剤師C（薬剤師歴25年程度）**により出向先医療機関のニーズを確認し、**必要とされる業務支援**を行う。

出向中堅薬剤師Aは出向先医療機関で勤務し、ニーズを指導薬剤師Cと情報共有
指導薬剤師Cは必要に応じて出向先医療機関に出向き、出向中堅薬剤師Aに助言することにより業務支援を提案



業務支援メニュー参考例

調剤業務支援

- 調剤機器や質の高い医療に向けた改善の検討と提案
- 非薬剤師へのタスク・シフトの可能性の検討と提案

病棟業務支援

- 病床機能と算定可能な業務の評価
- 業務内容の検討と提案
- システムや運用フローの検討と実施

チーム医療支援

- 算定可能な業務の評価
- 業務内容の検討と提案
- システムや運用フローの検討と実施

地域連携支援

- 算定可能な業務の評価
- 質の高い医療に向けた保険薬局との連携に関する検討と提案
- 業務内容の検討と提案
- システムや運用フローの検討と実施

目標

【出発点】
病棟業務や地域連携などの
薬剤師業務の拡充

職場としての魅力向上
「この病院で働きたい」という
薬剤師の思いを醸成

継続的で安定した雇用の実現



令和5年度事業の実施状況について

石巻・登米・気仙沼医療圏内病院に出向元医療機関の薬剤師1名が出向

令和5年6月	出向開始
	調剤業務支援実施
8月	薬剤師採用支援開始
9月	化学療法支援実施
10月	病棟業務支援実施
	指導記録のテンプレート化について提案・検討
11月	地域連携支援（研修会開催）
1月	指導記録のテンプレート運用開始
3月	出向終了

<実績>

- ◆ 月1回、指導薬剤師を交えてWebミーティングを実施し、課題や進捗状況等を共有。
- ◆ 病棟業務の指導記録のテンプレート化により、記載方法が統一され、指導記録の作成時間の短縮及び質の向上。
- ◆ 調剤業務支援により、病棟業務へのマンパワー増加。
 - 病棟業務における指導件数が1.5～2倍の増加。
 - 薬剤管理指導算定件数の増加。 5月：191件/月 → 6月～1月平均：336.9件/月
- ◆ 病院薬局間の連携体制の強化
 - 11月にがん化学療法連携研修会を開催し、病院薬局間の情報交換体制の構築。
- ◆ 採用支援として、8月からFacebookを立ち上げ、採用試験情報や薬剤師の働き方の紹介、当該事業に関する発信を実施。
 - R5年度に学生からの問い合わせ3件、うち2人は見学会を実施。